

番号	タイトル	種類 上映時間	内容
DIS-1	Enough Is Enough : Disarmament in the Post-Cold War Era	カラー 29分	冷戦の雪解けで世界のあちこちからホッとしたため息が聞かれる。軍拡競争の抑止は現実味をおびてきたが、しかし紛争地域ではまだまだ兵器が大量に使用されているのも現実である。アブダビの兵器市場、イラクへのIAEAの核査察、化学兵器の成分を分析するフィンランドの技術者、戦争中に埋められた何百万という地雷がカンボジアの経済成長を阻止している事実などを紹介。 (国連 1994年)
DIS-2	Chemical Weapons : A Monster Tamed	カラー 47分	化学兵器は第一次世界大戦で初めて使用され、以来多くの民間人や兵士を一瞬にして死にいたらしめた。化学兵器の開発と実験は重大な環境破壊と人体への損傷、健康悪化を引き起こしている。化学兵器はドイツで発明され、ヨーロッパ戦線で使用され近隣の諸国にまきちらされ脅威となった。ビデオでは旧ソ連の化学兵器調査センター、第二次世界大戦中における日本軍の化学兵器製造計画、国連監視下での化学兵器の破壊等、実像をまじえながら化学兵器のおそろしさを紹介する。 (国連 1994年)
DIS-3	Armed to the teeth (N-42)	カラー 28分	世界には、全人口の12人に一人が手にすることができるほど、多くの銃が存在する。小型武器の不正な取引が広まり、特に子どもたちがこうした小型武器を容易に手に入れることができる現状に焦点を当てたドキュメンタリー・ビデオ。(国連 2000年)
DIS-4	Legacies of War (N-43)	カラー 31分	戦争が残した影響は、戦争が行われた期間と同じくらい長引く問題であり、和平協定などで戦争が終結しても、その影響はすぐさま消えるわけではない。実際の戦闘が終っても、深く大きな傷あとが何の関係もない一般市民に残る。残された爆弾、地雷による身の危険、戦争が残した社会崩壊…。このような戦争の傷あとから立ち直ろうとする市民たちのドキュメンタリー・ビデオ。(国連 2000)